

2024 年度  
( 2024年4月 ～ 2025年3月 )  
環境経営レポート

2025.6.30

有限会社 KARS

〔事業の概要〕

1. 事業所名称 有限会社 KARS  
代表取締役 谷口 幸雄

2. 事業所所在地 〒808-0021 北九州市若松区響町1丁目62番地19

3. 設立年月日 (有)KARS 平成15年8月5日

4. 資本金	(有)KARS	1,000 万円
--------	---------	----------

5. 事業活動の内容

一般廃棄物の収集・運搬及び中間処理(選別・圧縮)
産業廃棄物の収集・運搬及び中間処理(選別・圧縮)

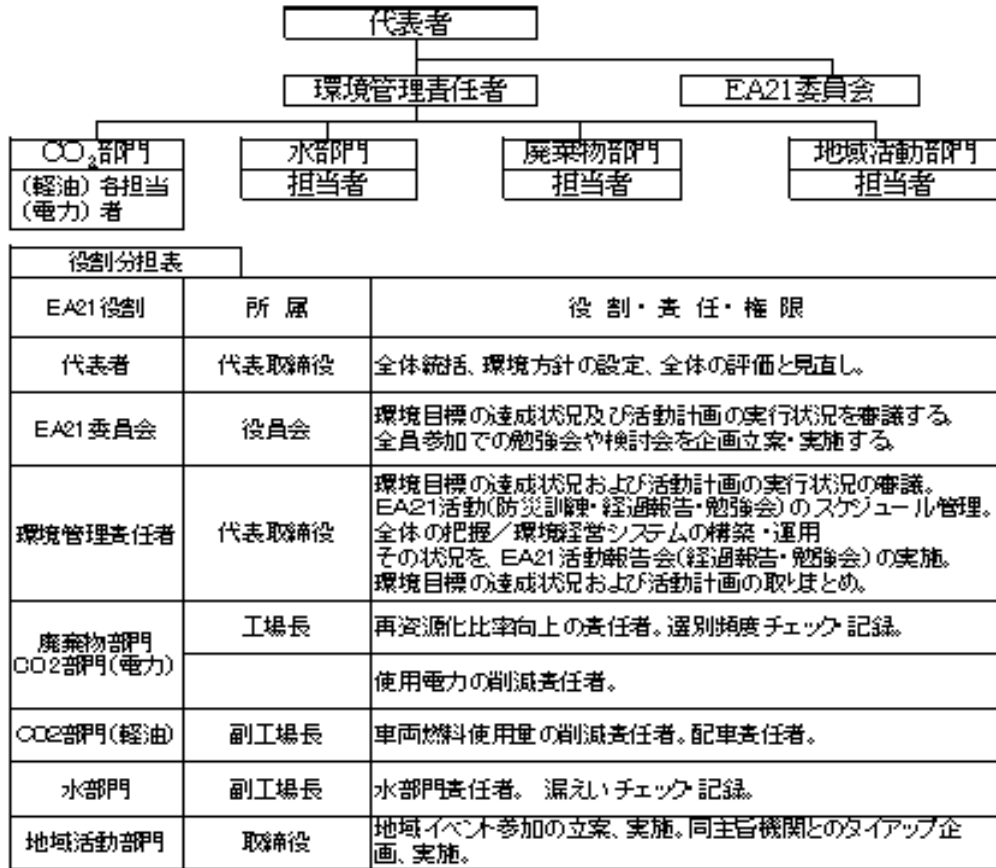
## 6. 活動規模

活 動 規 模	単 位	2022 年度	2023 年度	2024 年度
資源ごみ取扱量	t	2,012	1,865	1,880
売上高	百万円	265	190	239
従業員数	人	21	20	23
土地面積	m <sup>2</sup>	敷地面積(2,580 m <sup>2</sup> ) 床面積(756 m <sup>2</sup> )		
床面積	m <sup>2</sup>			

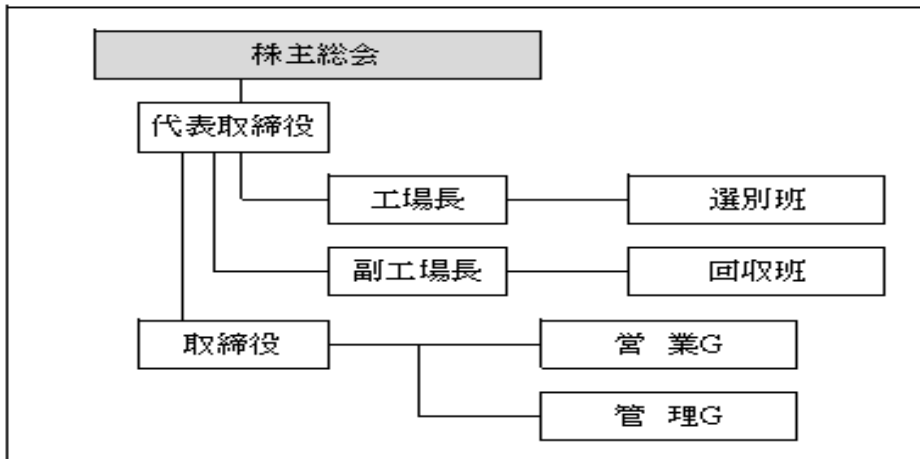
7. 事業年度  
2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

8. 認証登録範囲  
(全事業、全組織、全従業員を対象)

9. 実施体制図



組織図 (有)KARS



10. 環境管理責任者氏名及び担当者氏名、連絡先

責任者： 代表取締役 谷口幸雄  
 担当者： 代表取締役 谷口幸雄  
 連絡先： 093-752-7010  
 FAX： 093-752-7011  
 E-mail： [info@k-ars.co.jp](mailto:info@k-ars.co.jp)

## 〔環境経営方針〕

### （ 経 営 理 念 ）

私たちは、日々変化する社会が求めるものを  
提供し続けることにより、  
社員の幸福の実現と地域環境の保護に努めます。

### （ 環 境 経 営 方 針 ）

私たちは以下の活動を通じて環境経営の継続的な改善を推進します。

1. 環境関連法規を遵守します。
2. 電気使用量・使用燃料を削減することで温室効果ガスの発生を抑えます。
3. 徹底選別により廃棄物の再資源化率を高めます。
4. 水の使用量の削減。
5. 環境に良い商品・サービスの採用・グリーン購入に努めます。
6. 地域活動を通じた環境コミュニケーションを推進します。
7. この環境経営方針は、従業員全員に周知するとともに、研修や教育を行い全従業員の環境保全に向けた意識の向上に努めます。
8. この環境経営方針は広く一般に公表します。

平成 27 年 4 月 1 日 制定  
令和 6 年 8 月 28 日 改訂  
有限会社 KARS  
代表取締役 谷口 幸雄

## 1. 環境経営目標とその実績

### 1.1 環境経営目標の達成状況 2024年4月1日～2025年3月31日

- ・今年度も継続的に各項目の環境活動に取り組んだ。
- ・EA21ガイドライン2017(改訂版)に準拠した。
- ・化学物質使用はない。

① 二酸化炭素排出量	
・軽油 走行距離当たりの CO <sub>2</sub> 排出量	…… 0.5%削減
・電力 稼働時間当たりの CO <sub>2</sub> 排出量	…… 0.5%削減
② 再生資源化率の向上	…… 維持
③ 上水使用量の削減	…… 0.5%削減
④ 環境コミュニティ／イベント活動	…… 6件

### 1.2 中期環境経営目標

2022年度実績を基準として、3ヵ年の中期環境目標を各項目事に設定し達成することを当面の目標とした。

		基 準	目 標		
項 目		上段:基準数値 下段:実績年度	2024年度 令和6年度	2025年度 令和7年度	2026年度 令和8年度
①	二酸化炭素排出量の削減				
	軽油	0.53	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
	月間発生 CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /km)	(2022年度実績)	0.53 以下	0.52 以下	0.52 以下
	電力 CO <sub>2</sub> 排出係数:0.038/kWh	3.14	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
	月間発生 CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /hr)	(2022年度実績)	3.11 以下	3.09 以下	3.08 以下
②	再生資源化率の向上	96	維持	維持	維持
	(%)	(2022年度実績)	96.0 以上	96.0 以上	96.0 以上
③	上水使用量の削減	39.9	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
	(m <sup>3</sup> /avg.)	(2022年度実績)	39.5 以下	39.3 以下	39.1 以下
④	環境コミュニティ活動	6	8	8	8
	環境イベント参加 (件)	(2022年度実績)			

※ 令和2年度より、(株)北九州パワー値(係数 0.038kg-CO<sub>2</sub>/kWhに変更)

※令和6年度 化石燃料目標値を令和4年度実績 0.53 を基準とし 1.0%削減、0.53 以下に変更。

※令和7年度 化石燃料目標値を令和4年度実績 0.53 を基準とし 1.5%削減、0.52 以下に変更。

※令和6年度 電力目標値を令和4年度実績 3.14 を基準とし 1.0%削減、3.11 以下に変更。

※令和7年度 電力目標値は令和4年度実績 3.14 を基準とし 1.5%削減 3.09 以下に変更。

※令和6年度 再生資源率を令和4年度実績 96%以上を維持に変更する。

※令和6年度 上水使用量を令和4年度実績 39.9 を基準とし 1.0%削減 39.5 以下に変更。

※令和7年度 上水使用量を令和4年度実績 39.9 を基準とし 1.5%削減 39.3 以下に変更。

1. 3 2024 年度の目標とその実績

			2024 年度			
項 目			目 標	実 績	達成率	判定
①	二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> )			115,390	—	—
		軽油 (kg-CO2/km)	1.0%削減	0.52	102%	○
		(走行距離=213,193km)	0.53 以下			
		電力 CO2(kg-CO2/hr)	1.0%削減	3.26	95.39%	×
		(稼働時間=1,154Hr)	3.11 以下			
②	再生資源化率の向上		維持	97.36	101%	○
	(%)		96%以上			
③	上水使用量の削減		1.0%削減	32.17	122%	○
	(m <sup>3</sup> /月 avg.)		39.5 以下			
④	環境コミュニティ活動		8 件	8 件	100%	○
	環境イベント参加(件)					

1. 4 環境経営目標の担当部署と責任者

		2024 年度			
項 目		目 標	担当部署	責任者	
①	二酸化炭素排出量の削減				
	軽油		1.0%削減	副工場長	内村
	月間発生 CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /km)		0.53 以下		
	電力 (係数 0.038 kg-CO <sub>2</sub> /kWh)		1.0%削減	工場長	武富
	月間発生 CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /hr)		3.11 以下		
②	再生資源化率の向上		維持	工場長	武富
	(%)		96%以上		
	上水使用量の削減		1.0%削減	副工場長	内村
	(m <sup>3</sup> /月 avg.)		39.5 以下		
④	環境コミュニティ活動		8 件	取締役	深津
	環境イベント参加(件)				

## 2. 主要な環境経営計画の内容

毎日の業務日報に以下項目のチェックリストを設け、日々、項目のチェックを行なった。

### 2. 1 二酸化炭素排出量削減のための取組(軽油)

- 【選別班】Ⅰ. 荷積みや荷降ろし時、重機の空ふかしをしない
- Ⅱ. 使用していない重機のアイドリングストップを行なう
- 【回収班】Ⅰ. 荷積みや荷降ろし時、車両のアイドリングストップを行なう
- Ⅱ. 効率のよい回収ルート走行を実施する
- Ⅲ. 車両の空ふかしをしない
- Ⅳ. 車両の点検・整備(空気圧など)を小まめに実施する

### 2. 2 二酸化炭素排出量削減のための取組(電力)

- 【選別班】Ⅰ. 昼休み、終業後の電力不要時は電力遮断を行なう
- Ⅱ. 作業終了時に照明の消し忘れのチェック
- Ⅲ. 冷暖房の消し忘れのチェック
- Ⅳ. 装置の空運転防止

### 2. 3 総給水量削減のための取組

- 【選別班】Ⅰ. 終業時、蛇口の閉め忘れ等無いか確認する
- Ⅱ. 洗浄ホースからの水漏れチェックを行なう
- Ⅲ. 配管からの水漏れの有無を確認する
- Ⅳ. 蛇口の閉め忘れの有無を確認する

### 2. 4 廃棄物排出量削減のための取組

- 【選別班】Ⅰ. 混在缶処理時のライン選別を徹底する
- Ⅱ. ライン投入前の混在缶の土間選別を徹底する
- Ⅲ. 土間選別時、ビン破片の安易な残渣投入をせず、出来る限り選別する
- Ⅳ. 破袋ヤードでの再選別を実施する

### 2. 5 環境コミュニティ活動の取組

- Ⅰ. 地域イベントへの参加
- Ⅱ. 環境学習支援機関との連携

### 3. 環境経営活動の取組結果の評価

#### 3. 1 二酸化炭素排出量の削減(軽油)

- ・ CO2 削減の為、ドライバーと定期的にミーティングを実施した。
  - ・ 一般道路優先で運行を行ったが、目標値 0.53 に対して 0.52 となり 102%達成となった。
- R6 年猛暑の為熱中症対策として、エアコンの使用が大幅に上がったが削減活動の成果が見られる。作業員の作業環境を考え、積み込み作業時のエアコンの使用を許可する。

#### 3. 2 二酸化炭素排出量の削減(電力)

- ・ R6 年度の目標値 3.11 以下に対し、実績 3.26 (95.39%) であった。  
夏季シーズンの目標値を、4.03 としたが未達となる。
- ・ 夏場の作業環境を改善する為、空調設備を今年度も増設した。  
電力使用量は増えるが、まだ作業環境改善が出来ていない。
- ・ 作業環境改善と並行して、CO<sub>2</sub>削減に取り組む。

#### 3. 3 再生資源化率の向上

- ・ 目標資源化率 96.0%以上に対し 97.36%と目標達成。
- ・ 搬入時の選別が効率良く出来ている。運転手が積み込む際に荷台前方に、PET ボトルを積むなど工夫が見られ工場内でダンプする前に、PET ボトルの入った袋のみ先に落とすなど混合しない様に工夫が見られた。
- ・ 来季も更なる再生資源化率向上に取り組む。

#### 3. 4 上水使用量の削減

- ・ 昨年同様、工場内の異臭対策として、土間洗浄を毎日重点的に実施した。
- ・ 回収車両の荷台の悪臭対策、車体の洗車を作業終了時に定期的に行った。
- ・ 目標値 39.5 以下、実績 32.17 達成率 117% 目標達成

#### 3. 5 環境コミュニティ活動の取組

- ・ 目標 8 件に対し 8 件の結果となった。(目標達成)
- ・ 出展イベント他に、同じ目的で連携する関係団体とタイアップした活動に参加し、合計8件の地域活動に携わることが出来た。以下、詳細を記載
  - (1) 地域イベントへの参加 4件
  - (2) 環境学習支援機関との連携 合計 4件
    - ※ 教育支援活動 3件  
(花の苗提供活動 ×2件、タイムカプセル缶提供活動)
    - ※ 青少年育成機関への寄付 1件
- ・ 次年度目標も年間8件と据え置きをする。



#### 4. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

##### 4.1環境経営目標

2025 年度環境経営目標					
取組項目			取組内容	基 準	目 標 値
1	CO <sub>2</sub>	軽油	走行距離当たりの CO <sub>2</sub> 排出量削減	0.52	対基準年度 1.5%削減
		電力	稼働時間当たりの CO <sub>2</sub> 排出量削減	3.09	対基準年度 1.5%削減
2	廃棄物		再生資源化率の向上	96	【現状維持】
3	水		上水使用量の削減	39.3	対基準年度 1.5%削減
4	環境コミュニティ活動		環境イベント参加	8	【2 件増加】

※ 令和 2 年度より、(株)北九州パワー値(係数 0.038kg-CO<sub>2</sub>/kwh に変更)

※ 2022 年度を基準として見直した。

##### 4.2環境経営計画

項目	主な取組内容	責任者
CO <sub>2</sub> 排出量削減 (軽油)	作業時間や待機時間、走行距離の短縮化を図る	内村
	収集・運搬取扱量の平準化を行う、空荷走行の削減	
	運搬経路を選択する際に、幅員、渋滞等の道路条件を考慮する	
	排出者の排出条件や運搬先を把握し、適切な運搬計画を立てる	
	車両の計画的な点検・整備(外部検査含む)	
	無駄な重機使用をしない(リフト・重機の乗車前に計画を立てる)	
	アイドリングストップ等運転方法の配慮を行う	
	適切なギアチェンジ、法定速度の順守	
	回収ルートや頻度(周期)の随時見直し	
CO <sub>2</sub> 排出量削減 (電力)	休憩中の照明消灯	武富
	作業終了時の照明の消し忘れチェック	
	冷暖房の消し忘れチェック	
	装置の空運転防止	
再生資源化率の向上	選別の強化(ライン、土間、破袋ヤード)	武富
	びんの割れが少ない投入方法を行う	
	埋立ごみの内容を把握し、作業改善につなげる	
上水使用量の削減	作業終了時、及び車両清掃後、蛇口の締め忘れ確認	内村
	水道メーターでの水漏れ確認を定期的実施	
	各部ホース、水道配管からの水漏れ確認	
環境イベント参加	地域イベントへの参加	深津
	環境学習支援機関との連携(NPO 法人空き缶基金)	
	環境学習支援機関との連携(スチール缶リサイクル協会)	

## 5. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

- ・当事業所に適用される環境関連法規(廃棄物処理法等)の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。
- ・廃棄物処理法
- ・消防法
- ・フロン排出抑制法
- ・北九州エコタウンコンビナート地区防災連絡協議会協定

## 6. 代表者による評価及び見直し・指示

CO <sub>2</sub> 削減(軽油)	<ul style="list-style-type: none"><li>・今期も、ミーティングを不定期に行い、意見交換が出来CO<sub>2</sub>削減に繋がった。</li><li>来季も、運搬班ミーティングを不定期に行い意見交換提案を行う様に指示した。</li></ul>
CO <sub>2</sub> 削減(電力)	<ul style="list-style-type: none"><li>・今年度も、夏場の作業環境(工場作業員)の改善に力を入れた。</li><li>環境目標 CO<sub>2</sub>削減も並行して行ったが、作業環境改善を優先したしかし微量であるが目標に達した。来期も作業環境改善を行う。</li></ul>
再生資源化率の向上	<p>選別人員不足が一年間続いた結果、選別ラインに流す前取る作業が疎かになり、資源ごみと焼却物の徹底選別が、出来ない状態が続いた。</p> <p>来年度に向けて、人材確保を強化する。</p>
上水使用量の削減	<p>目標値の見直し後、初の達成となった</p> <p>来期も同様、削減に努める。</p>
環境コミュニティ活動	<p>開催中止が多く見られたが、新規のイベントに参加を行ったことで、目標達成出来た。</p> <p>今年度は、女性人の参加も多くあった。</p> <p>来期も進んでイベントに参加を行う。</p>

## 6. 添付資料

- 別紙1(許可の内容、施設の状況)
- 別紙2(廃棄物処理料金)
- 別紙3(処理実績～受託した産業廃棄物の処理量～)

作成年月日	2025 年 3 月 25 日
作成者	谷口 幸雄

別紙 1) 許可の内容、施設等の状況

区分	産業廃棄物			一般廃棄物	
業種	収集運搬業		処分業	収集運搬業	処分業
自治体	福岡県	山口県	北九州市	北九州市	北九州市
許可年月日	H30.11.19	R4.8.2	H30.10.8	R7.3.16	R6.6.9
許可有効期限	R7.11.18	R9.8.1	R7.10.7	R9.3.15	R8.6.8
可番号	第 04000106357 号 (優良)	第 03500106357 号	第 07620106357 号 (優良)	北九一廃 第 545 号	北九一廃 第 211 号
処分業の区分	積替え又は保管を 除く	積替え又は保管を 除く	中間処理業 (選別・圧縮、圧縮)	北九州市内	北九州市内に限る
事業の範囲	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、ばいじん、動植物性残さ(県のみ)、がれき類(県のみ)  以上 15 品目	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、ゴムくず、がれき類、ばいじん  以上 15 品目	金属くず、ガラスくず、廃プラスチック類、紙くず	A 類(ふん尿を除く一般廃棄物)	B 類(一般廃棄物のうち空き缶、ペットボトル、空き瓶、紙コップ)
事業計画の概要	「飲料済み容器等」の産業廃棄物を運搬・回収し、機械選別を中心とした選別ラインにより「アルミ缶、スチール缶、びん、ペットボトル」にそれぞれ分別圧縮してリサイクルします。 中間処理後に発生した自社発生廃棄物を含む産業廃棄物を適正処分地へ運搬します。				
事業の用に供するすべての施設	【施設の種類】 ※ 選別・圧縮施設 (24 時間／日) 処理能力：金属くず 90.8 t／日、ガラスくず 96 t／日 ※ 圧縮施設① (24 時間／日) 処理能力：廃プラスチック類 12.8 t／日、紙くず 17.4 t／日 ※ 圧縮施設② (24 時間／日) 処理能力：廃プラスチック類 15.8 t／日 【設置場所】 北九州市若松区響町 1 丁目 62 番地 19			【保持車両】 ・ 2t 塵芥車 1 台 ・ 7t アームロール 4 台	
処理工程図及び処理方式	<div><div><div>・金属くず ・ガラスくず及び陶磁器くず ・廃プラスチック類 ・紙くず</div><div>投入ホッパー</div><div>破集袋機</div><div>磁選機</div><div>アルミセパレーター</div><div>手選別ライン</div><div>廃プラ類</div><div>スチール缶</div><div>アルミ缶</div><div>ペットボトル</div><div>紙くず</div><div>ガラス瓶</div><div>圧縮機</div><div>プレス機</div><div>アルミ缶プレス機</div><div>圧縮機</div></div></div>				

※許可有効期限の下線は現在更新申請中です。

一般廃棄物処理施設 日間 96 トン処理 (北九一廃 第 211 号)

資源ごみ価格表  
【税込価格】

※ 別計量が可能であれば、数品目を一緒にお持ちいただいても構いません。計量は 10kg 単位です。  
ただし、少量の場合は手ばかりによる 1 kg 単位計量を行います。

<b>混在資源ごみ</b> (缶、びん、ペットボトル)	<b>▲10円/kg(逆有償)</b> ※ 混在比率の偏ったものについては別途協議の上、単価設定いたします。	
 <b>空き缶</b>	スチール缶	時価買取 … 鉄建値Cプレスー10 円/kg
	スチール缶、アルミ缶混合	※ 小数点以下切捨て ※ 最低買取価格 4円/kg
	アルミ缶	120 円/kg(買取)
	一斗缶	液たれしないもの 0円/kg(無償)
		液たれするもの 取り扱いません
	注1: スプレー缶は穴を開け、プラスチック部分を完全に取除いてください。 注2: 荷姿は「袋入り」「バラ」のいずれでも可です。 注3: 中身入りの缶は取り扱いません。 注4: 選別精度の悪いアルミ缶についてはスチール缶と同じ価格とします。 注5: 一斗缶は他のものと分けて荷降ろしができるように積み込んで下さい。 注6: 一斗缶に付着した固形物は極力ふき取って下さい。	
 <b>びん</b>	3色混合ビン (茶、透明、その他)	<b>▲20円/kg(逆有償)</b> ※ ふた付き、バラ搬入可です。 ※ その他びんの割合が5割以上の場合 ▲30 円/kg
		アルミふた 5 円/kg ※ 袋入りが条件です。袋の種類は問いません。
	注1: ビンについては極力汚損していないこと。 注2: 陶器、ガラス などが混入した選別精度の悪いビン ▲25 円/kg(逆有償)	
 <b>ペットボトル</b>	バラ	10 円/kg(買取)
	フレコンバッグ入り	10 円/kg(買取)
		※ フレコンバッグは汚損していなければサイズは問いません。
	注1: 中身入りのペットボトルは取り扱いません。 注2: 選別精度の悪いものは取り扱いません。	

KARS

有限会社 KARS

〒808-0021 若松区響町1丁目62番地19 北九州エコタウン内

TEL 093-752-7010 FAX 093-752-7011

別紙３）処理実績 ～受託した資源廃棄物の処理量

(単位:トン)

処理方法等		廃棄物等種類		処分方法	2024 年度
運搬		金属くず (混在缶)	産廃		1, 931.8
			一廃		273.4
		ガラスくず			351.4
		廃プラスチック類			576.6
		紙くず			38.6
		木くず			3.7
		その他廃棄物(一廃)			84.2
		その他廃棄物(産廃)＊1			10.4
		金属くず			92.6
		ばいじん			6.4
		収集運搬量合計 (内、一般廃棄物)			
中間処理		金属くず (混在缶)	産廃	選別、圧縮	1,596.4
			一廃		273.4
		廃プラスチック類			9.8
		ガラスくず			0.4
		紙くず			0
中間処理量合計 (内、一般廃棄物)					1,880.0 (273.4)
中間処理後 の廃棄物	最終処分	残渣 陶磁器くず		管理型埋立	80.8
		最終処分量小計			80.8
	再資源化 等	金属くず		金属ペレット	635.6
		廃プラスチック類	PET ペレット	534.9	
			サーマルサイクル	35.0	
			マテリアルリサイクル		
		ガラスくず	カレット	285.2	
			軽量骨材		
		紙くず	再資源化	0.0	
		木くず	チップ	1.0	
	再資源化等量小計			1,491.7	
中間処理後処分量合計					1,532.1